（

令和７年度　学習指導に関する取組

１　学習指導上の主な実態

（１）国・県・市の学力調査などから

・国語の学習内容は，どの調査においてもほぼ全ての領域で市の平均正答率より高い。しかし，とちぎっ子学習状況調査における「書くこと」の領域は，４・５年生ともに市の平均より低かった。その他の調査でも，「書くこと」は他の領域に比べ正答率が低い。指定された長さで自分の考えを書いたり，自分の考えを明確にして文章を書いたりする問題においては無回答の割合もやや高く，課題が見られる。

・算数の学習内容は，どの調査においても全ての領域で市の平均正答率より高い。しかし，観点別に見てみると，知識・技能の正答率は，ほぼ全ての調査で６割を上回っているのに対し，思考・判断・表現の正答率は，とちぎっ子学習状況調査において４・５年生ともに５割を下回っている。身に付けた知識を活用し，式の解法について図や式・言葉を使って説明したり，表やグラフ，数量関係から分かることを説明したりする力を身に付けていくことに課題が見られる。

・社会・理科の学習内容は，どの調査においても市の平均正答率を上回り良好である。しかし，とちぎっ子学習状況調査の５年生理科で，「エネルギー」の領域の正答率が５割を下回り，市や県より低かった。実験結果を理解して推測したり説明したりする力に課題が見られる。

・各調査，各教科に共通して，自分の考えを根拠を挙げながら話したり，自分の考えを分かりやすく伝えたりする力に課題が見られた。

（２）国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

・３年生以上の設問「学校の授業は分かりますか」において，全ての学年で９割を超えているが，市の平均を下回っている学年もある。また，「勉強が好きですか」において，肯定的に回答した児童は，低学年では８割を超えているが，学年が上がるに連れて肯定的に回答した児童の割合が下がっていき，７割を切っている学年もある。「学習に対して自ら進んで取り組んでいる」の肯定割合も低学年は８割を超えているが，高学年になると８割を下回っている。学習の内容は理解できているが，進んで課題を見付けたり，課題解決に向けて試行錯誤したりするなど，自らの学習を調整する力に課題がある。今泉モデルを実践しながら，主体的・対話的で深い学びの授業改善を行っていくことが課題である。

・平日の家庭での学習時間は，多くの学年で 30 分から１時間 30 分くらいと回答している児童の割合が高い。また，学年が上がるにつれて，ほとんどしないから３時間以上と家庭での学習時間に差があることが分かった。

・「１日あたりのテレビ，ビデオ，スマートフォンやタブレットの動画などの視聴時間」では，ほとんどの学年で 30 分から１時間程度と回答している児童の割合が多かったが，低学年でも 2～3 時間以上視聴している児童の割合が，市の平均より高い学年もある。また，

携帯電話やスマートフォンの所持率においては,「もっていない」と回答した児童は，どの学年も市の平均と同程度か市の平均を上回っていることから，所持していない児童が多いと言える。しかし，高学年になると，児童が携帯電話やスマートフォン等を持っている児童が６～７割程度いることから，個人用パソコンの利用と併せて，コンピュータやインターネットを適切に活用して生活していけるよう，デジタル・シティズンシップ教育が必要である。

・平日の読書は，30 分以内と回答している児童が多い。また,「ほとんど読まない」と回答している児童も各学年にいる。全体として読書量や少ない傾向にある。

（３）授業等への取組状況から

・授業への取組に関する設問では，ほとんどの学年でどの項目においても，肯定的に回答する児童の割合が高く，全体として落ち着いて話を聞き，授業に集中して取り組もうとする態度が身に付いていると言える。

・「グループでの話合いに自分から進んで参加している」と肯定的に回答した児童の割合は，ほとんどの学年で８割を上回っているが,「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」。肯定割合も，３年生以上で７割程度とやや低い。対話を通して学びを深める機会の充実が課題である。

２　今年度の重点目標

自ら考え進んで学び合う児童の育成を目指して ～子ども一人一人が主体的に「学ぶ」喜びを味わうことができる支援の工夫～

全ての児童がこれからの時代に求められる資質能力を身に付け，生涯にわたっての能動的に学び続けられるようするために,「主体的に学習に取り組もうとする子ども」「知識や技能を理解・習得したり，思考力，表現力，判断力を高めたりすることにより，学び合う楽しさを実感できる子ども」「学習について達成感や成就感をもつことができる子ども」「学習の中で自分の考えをまとめ，表現できる子ども」「お互いに認め合い支え合おうとする心豊かな子ども」の育成を目指す。そのために,「『今泉モデル』を基にした授業展開を通して，見通しをもって学習に取り組むこと」,「教材教具の開発や支援方法の検討，ＩＣＴ機器の活用を通して，児童が知識や技能を理解・習得したり思考力・判断力・表現力を高めて行ったりすることを総合的に行うこと」,「対話や言語活動を通して，自分の考えをまとめたり意見を表現したりすること」,「児童自身が学習の過程において自分の頑張りや学習の結果などを基に,『できた・分かった』と感じること」,「どの児童も安心して学校生活を送ること」を実現するための工夫を行う。

３　今年度の取組（「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★,「令和７年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

（１）知識や技能の理解・習得や思考力・判断力・表現力の向上に向けた取組

□　全国学力・学習状況調査，とちぎっ子学習状況調査の分析による課題の明確化（10 月）

★□　学習内容定着度調査結果，学習・生活アンケートの分析による課題の明確化（２月）

□　学習態度や学習技能の指導の徹底（通年）

□　泉が丘地域学校園としての「学習の約束」の指導（通年）

・　活用できる知識・技能（漢字や計算等）の定着を目指した朝の学習の実施（週２回通年）

（２）見通しをもって学習に取り組んだり，学習した内容について達成感や成就感をもったりするための授業の工夫

★□　明確な課題提示と発問，児童が学習の見通しをもてる「今泉モデル」の実施（通年）

□　主体的な学びにつながる振り返りと，児童間の対話を大切にする授業の工夫(通年)

○　対話により自分の考えを伝え合い，児童が知識を深める授業設計（通年）

・　学年・ブロック・教科部会等による全クラス実施の公開授業と授業研究会（通年）

○　個人用パソコンなどＩＣＴ機器の活用した，個別最適化された学びの工夫（通年）

（３）どの児童も安心して学校生活を送るための，特別支援教育の理解促進

・　特別支援教育に関する研修の実施（合理的配慮の提供を含む）

・　個別の支援計画策定に関する研修等の実施

・　かがやきルームの適切な運営

・　特別支援学級の学習内容の工夫（通常学級の担任も一体となって理解を深める）

・　特別な支援を必要とする児童に対応するための校内システムの構築

（４）学習と生活との関連についての指導の充実

□「 泉が丘地域学校園版家庭学習の手引き」から各学年の学習ポイントを活用した家庭学習や自主学習の奨励（通年）

★　テレビやゲームなどの時間の約束の設定と家庭学習の習慣化(通年)

（５）読書指導の充実

□　朝の読書タイムや読み聞かせなどの全校一斉読書の充実

・　図書館だよりの定期的発行(毎月１回)による家庭読書の充実と親子読書のすすめ(11 月)

・　読書記録の作成と推薦図書の整備（通年）

（６）家庭・地域との連携

・　「街の先生」や地域人材の活用・体験的な学習の充実（通年）

★　授業参観による授業の公開および懇談会等の実施（4 月，12 月，2 月）

□　学級懇談会において,「学習内容定着度調査, 学習と生活についてのアンケート結果の公表による課題」の共通理解（４月）

・　「泉が丘地域学校園版家庭学習の手引き」から各学年の学習ポイントを共通理解（４月）

・　学級懇談会での学校評価結果の活用（２月）